



平成22年1月号

偉人を悩ませたあの病気

ドイツの大作曲家、バッハは1685年に生まれた。バッハ家は代々音楽を職業にした家系で、2世紀半程の間に約60人も音楽家を輩出した。のちにバッハは最初の妻との間に7人の子供を、2度目の妻との間に13人もの子供をもうけた。

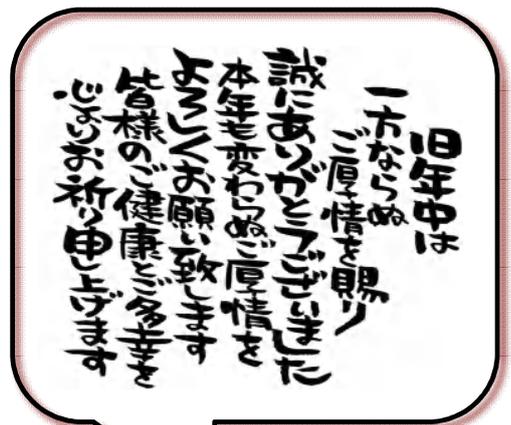
【視力低下で手術をしたが失明】

60歳近くになってから、バッハは視力が衰え始めた。そのため1749年、ジョン・テイラーという医師に2度手術を受けたが、失敗に終わった。術後はほとんど失明状態に近かったらしい。そして糖尿病性網膜症を繰り返していた恐れもあると言う。糖尿病を患っていたからだ。糖尿病で血糖値が高い状態が長年続くと、合併症として眼底出血を起こすことがある。白内障もまた、糖尿病の合併症として起こる。結局、バッハは1750年、脳卒中の発作を起こして亡くなった。65歳だった。**糖尿病で血糖値が長い状態が長年続くと、動脈が障害を受けて動脈硬化が進み、心筋梗塞や脳卒中などの循環器系の重大な病気の発症につながる。**脳卒中のうち脳出血は主に高血圧が原因として発症する。バッハも、高血圧による眼底変化によって失明したのではないかとされている。眼の手術の前後、バッハは半身不随となつたらしいが、手術前にも脳卒中の発作を起こしたとも言われる。



糖尿病は現在、21世紀の国民病と言われるほど日本人に増加している。成人後の失明原因としては、糖尿病性網膜症がトップだ。

ほんベクリニクの本部千博院長(本部視力&健康研究所所長)は、次のようにアドバイスしている。**【生活習慣に特にこれと言って問題がないのに、血糖値のコントロールがうまくいかない人がたくさんいます。肝臓の働きが悪い人にそういう例が多く見られます。肝機能検査のGOT、GPTが正常だからと言って、肝臓の機能全体が正常に働いているとは限りません。血糖値のコントロールは肝臓の機能によっているという説もあります。肝臓の働きが悪い原因は、便秘やストレスなどです。糖尿病を治すには、食べ過ぎないようにして、胃腸に負担をかけず、下痢や便秘を正常に戻し、そして肝臓がいつも余裕を持って働ける環境づくりをしなければなりません。】**



2010